2-10 地域貢献 社会貢献

ネットワーク型コンパクトシティ(NCC)に住んでみよう!

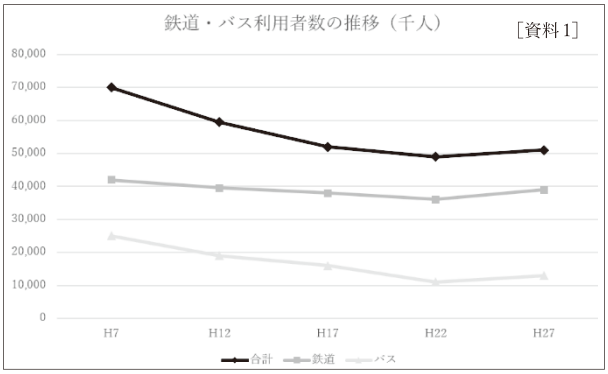
~すごろくで体験！公共交通機関の利便性~

白鷗大学　経営学部　青﨑ゼミナール　3 年
内谷結彩(うちやゆい)　増淵礼菜　吉田遼人　和田怜士

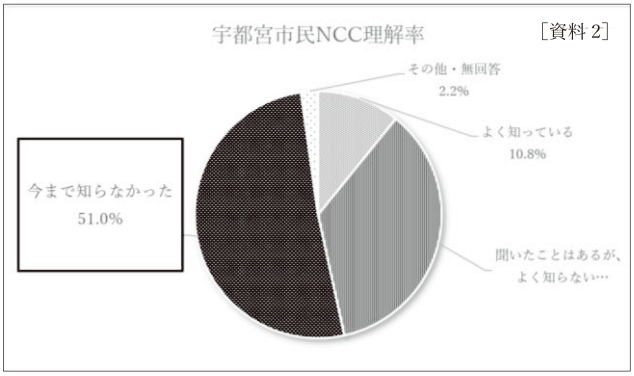
【概要】人口減少によるまちの密度の低下により自動車への依存度が高まり、その他の移動手段の理解・利用度が低い。この課題を解決しうる都市の形こそネットワーク型コンパクトシティ(以下 NCC)であるが、住民理解が不十分である。そこで NCC を小中学生を対象に、全体図を可視化できるすごろくを通して広めることで NCC への将来的な住民理解を促進し、新たな移動手段の選択肢拡大が期待できる。
【栃木を元気にするには】本県は、人口減少による郊外の過疎化、交通手段の狭まりによる自動車への依存など多くの課題を抱えている。そこで、2050 年に向けて若い世代に NCC を周知させることは行政と地域市民の連携を深め、将来宇都宮市が構想する理想のまちづくりの基礎となる。よって、NCC の周知を促すプロジェクトは県全体を長期的に活性化させるという観点で非常に有効であると考察する。

【背景】

現在の栃木県は、郊外部まで市街地が広がり生活に必要な施設や機能が拡散しているため、様々なサービスの提供が非効率になっている。公共交通が整備されていない地域や、運行本数の少なさ・駅の遠さなどから、公共交通の利便性に欠ける地域が存在する。［資料 1］より、鉄道・バスの利用者数が 20 年前の約 3/4 に減少していることが分かる。これらによって自動車への過度な依存が生まれ、自動車を持たない人々は不便な生活を強いられている。宇都宮市もこの例外ではない。そこでこれらの問題を解決しうる都市の作り方として、宇都宮市では NCC が構想されている。NCC とは、中心市街地やそれぞれの地域拠点、産業・観光拠点にまちの機能を集約し、それらを利便性の高い公共交通などで連携した都市である(未来都市うつのみや 第 6 次宇都宮市総合計画 概要版より)。これを実現するには行政と地域市民との連携や相互理解が必要不可欠である。しかし、宇都宮市が平成 29 年に実施した市民アンケート［資料 2］によると、NCC の非認知割合が 51.0%を占める結果となり、NCC の理解促進が疎いことがわかる。これは、住民理解を前提として行うまちづくりにとって思わしくない結果であり、私たちは NCC に関する理解を促す必要があると考えた。また、NCC の拠点間の機能連携・補完等の中心的な役割を果たす公共交通機関（ネットワーク）に着目した。大学生である私たちも日常生活において、観光地や商業施設へのアクセスの不便性を痛感している。



宇都宮市鉄道バス利用者数調査(平成 7 年~平成 27 年)より作成



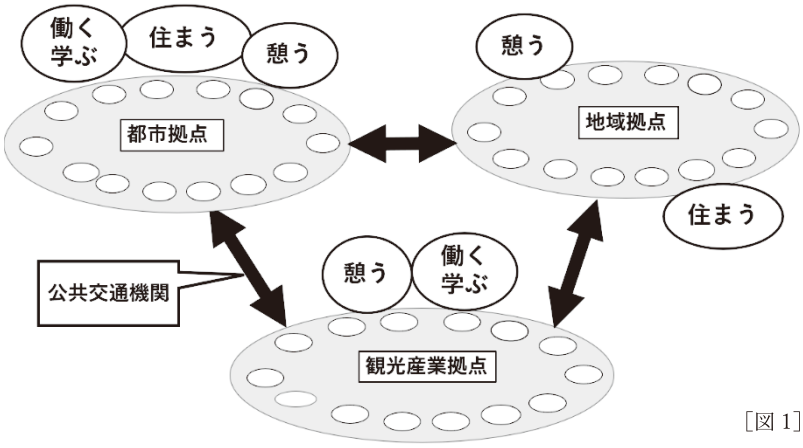
宇都宮市役所　NCC のまちづくり調査（平成 29 年 10 月）より作成

【考察】

NCC を周知させるにあたり、将来社会の中心世代となる現在の若者をターゲットにすることで、2050年を見通した長期的なまちづくりが可能になると考察した。例えば、中学生を対象に郷土愛の醸成を目的とした授業「宇都宮学」に、NCC の学習を導入している(宇都宮市役所都市整備部都市計画課ヒアリングより)。市は NCC の学習難易度を考慮し、中学生からの学習が適正であると考えている。そこで、私たちは NCC の学習難易度を緩和させ、より理解しやすくし、楽しく学んでもらうことで小学生からの学習も可能になると考えた。これにより、中学生で学ぶ「宇都宮学」の前準備となる。かつ、小さい頃から NCC を知ってもらうことで親しみを持たせ、身近な存在と認識させることが可能になる。

【プロジェクト】

以上の考察をもとに、小中学生を対象とした NCC の周知に有効なゲームを提案する。このゲームには、NCC のイメージ図を投影したすごろくを用いることが最も効果的であると考える。なぜなら、NCC の全体像を一目で見ることができ、ストーリー性をもたせることで将来の NCC での生活を疑似体験できるからである。作成の過程では、知育すごろく事業に関わる組織や団体へのヒアリングも同時に行う。そこで得た情報を取り入れることで、NCC の周知により有効なすごろくを作成できる。まずすごろくには、[図 1] にあるように、観光産業・地域・都市それぞれの拠点を設ける。そして、それぞれのエリアを公共交通機関で結ぶことで NCC を再現する。そのエリア内には多数のマスを設け、NCC での生活を疑似体験できる内容を盛り込む。例えば、「歩いて行ける距離に病院がある」、「大谷エリアまで LRT で一直線!」など。すごろくを作成した後に宇都宮市役所へ提出し、行政や教育関係者の立場から評価をいただくことでこのすごろくがどれほど NCC の住民理解に貢献できるのかを検証する。さらに、それらの評価を今後のすごろく改善につなげていく。



[図 1]

すごろくのイメージ図

【今後の課題と展望】

以上のプロジェクトを実施することにより、公共交通機関の利便性が市民に伝わり、日常的に利用されることが期待できる。現代の生活には「衣・食・住」という基本的な権利に「移動」が加わっている。本プロジェクトを通して車以外にも便利な交通手段があることを認知させ、市民の選択の幅が増えれば、快適な移動の手助けができる。公共交通機関を利用した快適な移動は暮らしやすいまちづくりに欠かせない。また、NCC 完成時に中心世代となる小中学生を対象にし、今後のまちづくりを共に模索することで、より多くの若者を宇都宮へ引き留めることが出来る。NCC は人口減少に併せてまちを縮小していくという側面があるが、人口減少抑制の効果も併せ持つ。よって、呼び水のような効果を発揮し、将来の宇都宮のまちを活性化させる役割担うことが期待できる。しかし、その効果を得るにはこれらを継続して行わなければならず、すごろくゲームを単発的ではなく長期的に持続していくことが課題である。そこで、小学生を対象とした「宇都宮学」のカリキュラムにこのすごろくゲームを盛り込むなど、継続的な実施をすることで今後の研究に深みを持たせていきたい。